

第13回飲酒実験速報版

〇 実施年月日

平成30年12月 1日(土)

〇 実施拘束時間

10時30分 ~ 17時00分

〇 場所

1084202) - 1184002)

〇 実験参加者

交通安全まなびのば(岡山市北区奥田本町22-4) 岡山操山ライオンスクラフ員、奥田本町町内会、市民有志

〇 サポータ

マイクロメイト岡山株式会社 社員、地域住民

0 5/11-9

・NPO法人 安全と安心 心のまなびば理事長

金光義弘

გისკმიგმიგმიგმიგმიგმი გამიგმი გამიცნები გამ

学術分析

川崎医療福祉大学名誉教授

・マイクロメイト岡山株式会社 交通部門係長 三宅宏治

〇立会医師

岡山市民病院部長

小橋勇二

() 実験統括

・マイクロメイト岡山株式会社 代表取締役会長

NPO法人 安全と安心 心のまなびば副理事長

木村憙從

(全ての参加者に体内から確実にアルコールの抜ける、翌日一杯は運転しない誓約書を とっています。)





飲酒実験のはじまりについて

この実験は、平成 18 年 8 月 25 日 22 時 50 分頃、福岡市東区の海の中道大橋で、家族 5 人が乗っていた乗用車に『飲酒運転』の車が追突し、追突された乗用車は橋の欄干を突き破り、そのまま博多湾に転落した。乗用車は水没し、車内に取り残された 4 歳の長男、3 歳の次男、1 歳の長女の 3 名が溺れて死亡した。この事件から学んだことは、「飲酒と運転の関係」を徹底的に調査・研究し、「飲酒運転の危険性」を誰もが理解できる数値やグラフで表し、飲んで運転することは事故に直結することを知ってもらうことにあった。昨年まで毎年実験の課題を変化させながら 12 年間にわたり、250 名以上の市民の皆様の協力により貴重なデータを収集し、その分析結果は、日本交通心理学会等へ発表し、学術根拠を得て広く開示してきました。

第 13 回飲酒実験について

13回目を迎えた今年は、16名の実験参加者全員が途中脱落することなく最後まで実験に協力して下さいました。

またサポータを勤めた皆様も、それぞれの役割分担で真剣に取り組みお疲れ様でした。10時間にわたる進行も、12年間積み重ねたノウハウにより順調に進み、続けることの大切さを感じました。そして実験参加者の皆様も、飲酒と運転について再考するよい機会になったと感想を述べられ、学んだ中にも参加への喜びを感じていただけたことは何よりの収穫であったと思います。

飲酒量は最高飲酒者が8単位まで飲まれ、途中のダウン者も4人ありましたが、小橋医師の適切な処置と、事前準備していた休憩室の利用により、全員が全ての検査を済ませ、元気に帰宅することができました。

これから詳細な分析作業を進め、完了次第実験情報を開示しますのでご期待下さい。

平成 30 年 12 月 1 日

実験統括責任者
木 村 憙 從

実験の概要

以下の疑問に答えることを目的として実験を行った

1. 飲んだお酒は体内にどのくらいの時間残るか?

「呼気検査、尿検査(分析中)」

2. 自分が酔ったと感じるレベルと生理的酔いにどのようなズレがあるか?

「主観的酔いの検査」

3. 普段の飲酒行動は適切か?

「アルコール依存症スクリーニング検査(AUDIT/KAST-M)(分析中)」

4. 運転行動にどのような影響があるか?

「運転適性検査」

結果の概要は以下の通りであった。

アルコールの生理的な影響と心理的反応とのギャップが明らかになり、飲酒運転による危険の可能性が高いことが明らかになった。

結果の詳細については現在分析作業を進めており、最終結果は 2019 年度の学会及 びマスコミ報道に公表の予定です。

方法及び手続き

本実験は、募集に応じたボランティアの協力を得て、体験学習形式に基づいて行われた。

実験対象者

ボランティア参加者16名を無作為に2班に分け、2つのテーブルに配置した。 全16名の内訳は、全員男性で、平均年齢は53.1歳(標準偏差:18.5)であった。

実験日時と場所

2018年12月1日、9:30から17:00まで、実験場所はマイクロメイト岡山株式会社の1F「交通安全まなびのば」において行われた。

検査項目

1.呼気検査器

燃料電池センサー型アルコールチェッカーの東海電子社製アルコールチェッカーALC-miniIV(定価約 120,000 円)を使用された。

- 2.気分の聞き取りと酔いのチェック 主観的な酔いの程度、酔い覚めの程度、運転の可否等が調べられた。
- 3.尿検査:医療機関(LSI メディエンス社)にて尿中エタノール量の測定を依頼した。 分析中
- 4.「WHO アルコールスクリーニング検査(AUDIT) &新久里浜式アルコール尺度(KAST-M)」を使用し、アルコール依存症レベルが測定された。分析中

5.器械検査

運転適性検査器「CRT 運転適性検査器」竹井機器工業株式会社社製を使用しアクセル・ブレーキ反応検査を使用し、青・黄・赤の刺激に対し、それぞれの反応動作の正確さ、速さを測定する『3刺激選択反応検査』を測定された。

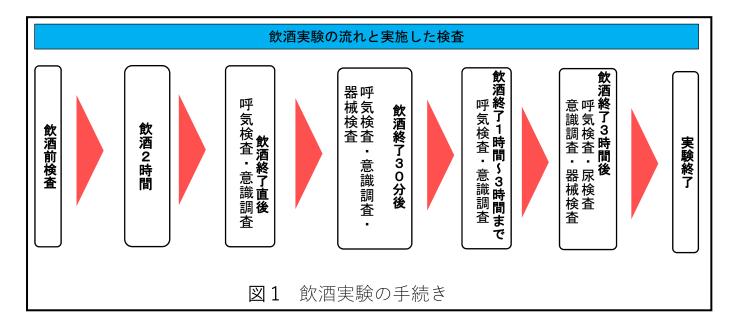
実験状況

実験対象者は、実験の説明と参加の同意を受けた後、飲酒前検査の後、約2時間において、普段、宴会等に飲酒する量のアルコールと、好みの食べ物を自由に飲食した。

タイムキーパーの指示に従って以下の通り、時間統制を行った。

- ① 呼気検査と主観的酔いの測定は、飲酒終了直後,30分後,90分後,150分後,飲酒終了3時間後、 の5回測定した。
- ② 器械検査と「WHO アルコールスクリーニング検査(AUDIT) &新久里浜式アルコール尺度(KAST-M)」は、飲酒前(プレテスト)飲酒終了30分後(MAX テスト)、飲酒終了3時間後に諸検査(ポストテスト)を実施した。
- ③ 尿検査は、飲酒終了3時間後に検査を実施した。

実験の手続きは、下記の図1の通りであった。



誓約書

私は本日開催される「飲酒と運転に関する実験」に賛同し、自らの意思と自己責任でこの実験に参加しましたので、以下の事項について厳守します

- 1.自分の体調は自分で管理します
- 2.自己責任の範囲で無理のないように飲酒します
- 3.体調に変化があった場合は直ちに飲酒を中止し、申し出ます
- 4.各種のデータを取るために必要な検査(尿検査を含む)を受けます
- 5.報道機関の取材を受け、容姿や実験で収集された個人データが公表されることを 了解します
- 6.飲んだアルコールが体内から完全に抜ける平成30年12月2日終日の車の 運転(自転車も含む)など道路交通法に違反する運転や行為は絶対にしません 7.貴重品は自分で管理します

平成 30 年 12 月 1 日

誓約者(自署)

住所		
氏名		

※実験に同意頂けた方は、中の質問に答えましょう

アンケートにお答えください

NO.		氏名:			
性別:	男 女				
生年月	日:	年 月	В	年齢:	歳
1	今の体調は?	①良好	②問題なし	③わか	らない
2	身長は?				cm
3	体重は?				kg
4	体力は?	①あるほうだ	②普通	3ない	ほうだ
5	あなたはお酒を	どのくらいの頻度で	で飲みますか?		
	a.飲まない	b.1ヶ月に1度以下	c.1ヶ月に2~4度	d.週に2~3度	e.週に4度以上
		飲まれるお酒の種 T			
	日本酒		ビール大瓶	本	
6	ビール中瓶		ビール中ジョッキ	杯	
	水割りダブル		ワイン・グラス	杯	
	梅酒小コップ	杯	焼酎 お湯割(水割り)	杯	
	その他				

※スタッフは、全ての設問に回答しているか必ず確認して下さい。





飲酒スタート

飲酒時間:120分間







各テーブル写真



提供したアルコール量について



実験対象者には、単位計量ができる任意のアルコール飲料を提供した。本実験の<u>1単位の量は、アルコール飲料に含まれる純アルコール量が20gと設定し、以下の種類を提供した。</u>

① ビール(5%) 500mL

② 日本酒(15%) 180mL

③ 焼酎(25度) 110mL

④ 耐ハイ(7%) 350mL

⑤ ウイスキー(40%) 50mL

⑥ 梅酒(14%) 180mL



【要注意】 炭酸飲料水の中にアルコール1%以上を含むものがある アルコール1単位が処理される時間:体重60kgの人で3~4時間



実験参加者総数 30名(サポータ含む)

最高飲酒量者のデータ

年齢 46歳

飲酒量 8単位

11:00 ビール

11:26 ウイスキー

11:42 ウイスキー

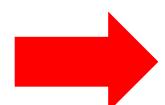
12:03 ウイスキー

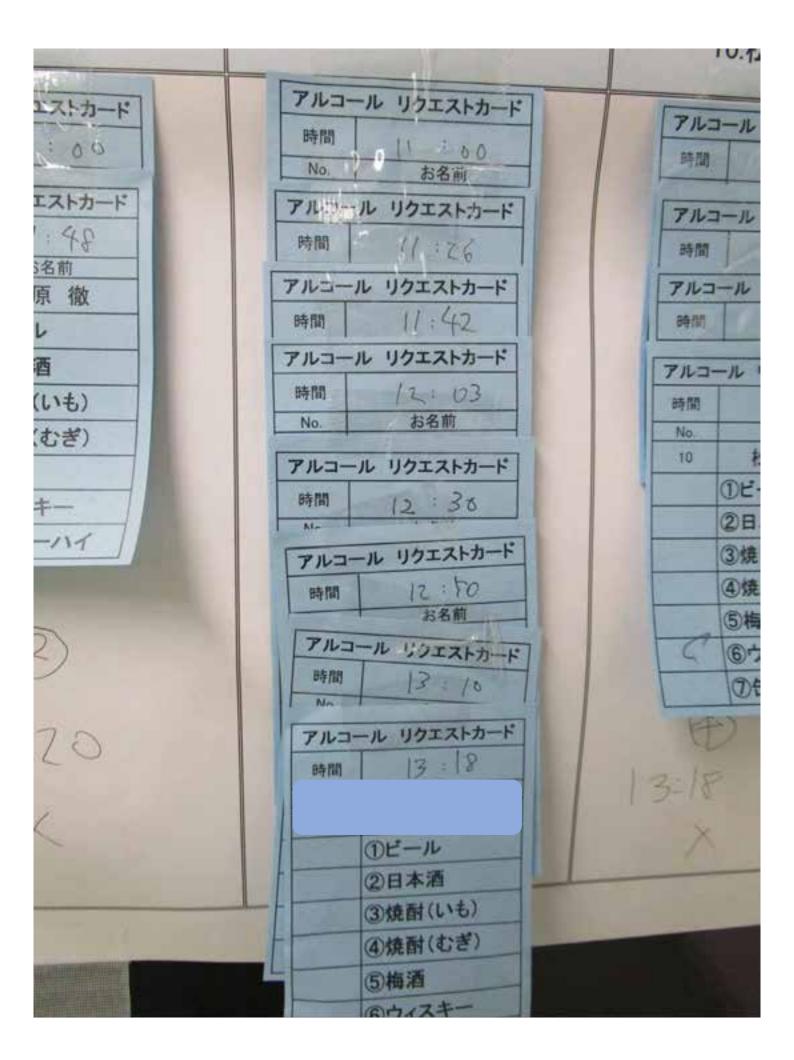
12:30 ウイスキー

12:50 缶酎ハイ

13:10 缶酎ハイ

13:18 缶酎ハイ





呼気検査











DATE 2018/12/01 TIME 15:16:37 RESULT 0.782mg/L TESTS 00101

結果 1.呼気検査について

呼気検査は、飲酒前及びアルコールを任意量摂取した飲酒終了直後,30分後,90分後,150分後,飲酒終了3時間後の6回測定が行われた。飲酒量(単位)ごとに降順に並び替えを行った。

飲酒直後で最大呼気アルコール量を計測した。(表 1)

飲酒終了3時間後において、飲酒量に関わらず実験協力者<u>多くのものから呼気エタノール量が酒気帯び</u> 運転の基準である 0.15mg/lを大きく超えて検出された。

表1各実験対象者のアルコールチェッカーを使用した場合の呼気中アルコール量(mg/l)

							<u> </u>	
NO.	飲酒量 (単位)	年齢 (歳)	飲酒前 (mg/l)	飲酒直後 (mg/l)	30分後 (mg/l)	90分後 (mg/I)	150分後 (mg/I)	180分後 (mg/l)
9	8	46	0.000	0.909		0.782		0.715
1	5	76	0.000	0.640	0.530	0.412		0.400
2	4	74	0.000	0.477	0.420	0.342	0.308	0.256
3	4	54	0.000	0.385	0.314	0.216	0.182	0.197
4	4	73	0.000	0.284	0.296	0.219	0.231	0.204
5	4	59	0.000	0.554	0.719	0.416	0.341	0.310
7	4	66	0.000	0.487	0.376	0.330	0.239	0.205
10	4	51	0.000	0.513	0.368	0.296	0.243	0.241
12	4	35	0.000	0.482	0.405	0.353	0.261	0.240
15	4	56	0.000	0.370	0.326	0.265	0.189	0.178
16	4	44	0.100	0.701	0.583	0.477	0.391	0.375
6	2	49	0.000	0.083	0.072	0.052	0.000	0.000
8	2	40	0.000	0.284	0.000	0.000	0.000	0.000
11	2	59	0.000	0.224	0.167	0.120	0.060	0.000
13	2	43	0.000	0.223	0.153	0.097	0.066	0.000
14	2	24	0.000	0.106	0.093	0.074	0.000	0.000
平均	3.688	53.063	0.006	0.420	0.321	0.278	0.179	0.208
標準偏差	1.684	18.558	0.024	0.230	0.203	0.196	0.131	0.187

※1 赤色は、 3 時間経過後呼気アルコール量が、0.25mg/L以上を示した者 ※2 黄色は、 3 時間後に呼気中アルコール濃度が 0.15mg/ I 以上を示した者 ※3.緑色は、呼気検査器で呼気中アルコール量が 0.000mg/ I を示した者

※4.朱字の NO.16 は、前日の酒気残り状態で実験に参加した者

おトイレチェックと尿検査



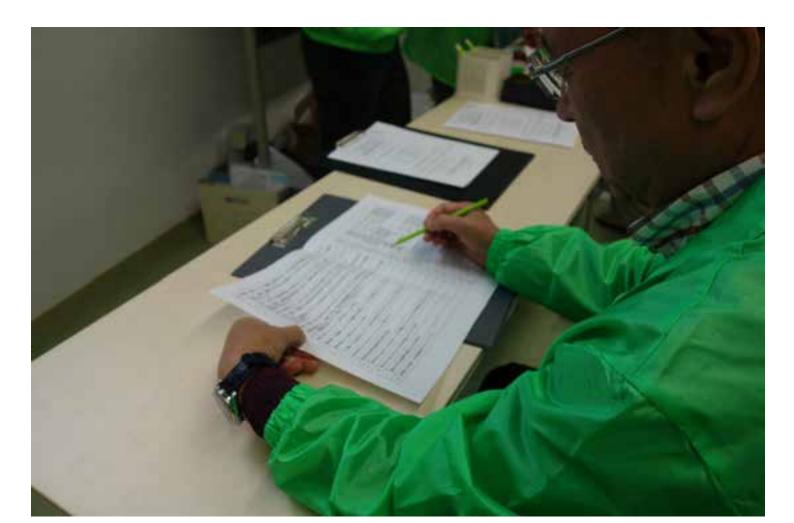




意識調査

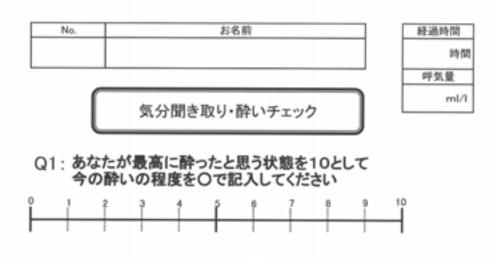






主観的酔いの程度の結果

飲酒直後から30分毎にて主観的酔いの程度について、以下の質問紙を用いて行われた。飲酒終了 直後,30分後,90分後,150分後,飲酒終了3時間後の5回測定が行われた。



Q2: 該当する表現の番号にO印をつけてください

1	まったく普段と変わらず正常だ
2	少し酔ったかもしれない
3	酔った感じがする
4	かなり酔った感じがする
5	完全に酔ってしまった

Q3: 今の状態で車を運転できますか? 〇で囲んでください

1. いつも通りできる 2. やろうと思えばできる 3. 多分できない 4. 全くできない

Q4: あなたは、今酔いから醒めていますか?

1.醒めている 2.醒めていない

Q4で、<u>醒めていない</u>と回答された方にお聞きします。 今から 何時間くらい経てば、醒めると思いますか?

時間くらい

結果2. アルコール症スクリーニングテストについて

(分析中のため結果はありません。)

2-1.久里浜式アルコール症ストスクリーニングテスト

(本実験では、男性版 KAST-M を使用された)

独立行政法人国立病院機構 久里浜アルコール症センター 樋口進らによって作られた日本人向けのアルコール依存症のスクリーニングテストである。 2003年に「新久里浜式アルコール症ストスクリーニングテスト」に改訂された。

新久里浜式アルコール症ストスクリーニングテスト: 男性版(KAST KAST-M)

項目	はい	いいえ
最近6ヶ月の間に次のようなことがありましたか?		
1) 食事は1日3回、ほぼ規則的にとっている	0 点	1 点
2) 糖尿病、肝臓病、まだは心臓病と診断され、その治療を受けたことがある	1点	0 点
3) 酒を飲まないと寝付けないことが多い	1 点	0 点
4) 二曰酔いで仕事を休んだり、大事な約束を守らなかったりしたことが時々ある	1 点	0 点
5) 酒をやめる必要性を感じたことがある	1 点	0 点
6) 酒を飲まなければいい人だとよく言われる	1 点	0 点
7)家族に隠すようにして酒を飲むことがある	1 点	0 点
8) 酒がきれたときに、汗が出たり、手が震えたり、いらいらや不眠など苦しいことがある	1 点	0 点
9) 朝酒や昼酒の経験が何度かある	1 点	0 点
10) 飲まないほうがよい生活を送れそうだと思う	1 点	0 点
		 点

合計点が 4 点以上: アルコール依存症の疑い群

合計点が 1~3 点: 要注意群(質問項目 1 番による 1 点のみの場合は正常群。) 合計

点が0点:正常群

久里浜医療センターHP より引用

http://www.kurihama-med.jp/alcohol/

結果2-2. WHO アルコール依存症のスクリーニング(分類)テスト)

AUDIT(The Alcohol Use Disorders Identification Test)について

(分析中のため結果はありません。)

AUDIT は、6カ国(ノルウェー、オーストラリア、ケニア、ブルガリア、メキシコ、アメリカ)の調査研究に基づいて作成され、人種や性別による差が少ないとされています。 AUDIT の中でも、 Core AUDIT 【表2】と呼ばれる 10項目が使われることが多く、依存症以外にも、将来の危険な飲酒者についても同定可能とされています。過去 1年間について、10項目の質問に答える形になっており、該当する各選択肢に付された番号を合計します。

一応、AUDIT の発案者によるカットオフポイント【表3】と、指導の程度【図2】2)を示しますが、各国の飲酒パターンによってカットオフポイントが異なるとされています。

日本で行われた研究では12点以上が問題飲酒の、15点以上がアルコール依存症の cut-off ポイントとなっています 3)。

- Babor TF, Fuente DL Jr, Saunders JB et al : AUDIT: The Alcohol Use Disorder Identification Test: Guidance for Use in Primary Health Care. WHO, 1992
- Babor ,TF . Brief Intervention for harmful and hazardous drinking .
 (http://whqlibdoc.who.int/hq/2001/WHO_MSD_MSB_01.6b.pdf)
- 3. 廣 尚典訳: WHO/AUDIT(問題飲酒指標/日本語版):千葉テストセンター, 2000

久里浜医療センターHP より引用

http://www.kurihama-med.jp/alcohol/

- 1. あなたはアルコール含有飲料をどのくらいの頻度で飲みますか?
 - 0. 飲まない 1. 1 カ月に 1 度以下 2. 1 カ月に 2 ~ 4 度
 - 3.1週に2~3度 4.1週に4度以上
- 2. 飲酒するときには通常どのくらいの量を飲みますか?

ただし、日本酒 1 合= 2 ドリンク、ビール大瓶 1 本= 2.5 ドリンク ウイスキー水割りダブル 1 杯= 2 ドリンク、焼酎お湯割り 1 杯= 1 ドリンク ワイングラス 1 杯= 1.5 ドリンク位、梅酒小コップ 1 杯= 1 ドリンク

- (1 ドリンク=純アルコール 9 ~ 12 g)
- 0 . 1 ~ 2 ドリンク 1 . 3 ~ 4 ドリンク 2 . 5 ~ 6 ドリンク位
- 3 . 7 ~ 9 ドリンク 4 . 10 ドリンク以上
- 3. 1 度に 6 ドリンク以上飲酒することがどのくらいの頻度でありますか?
 - 0.ない 1.1カ月に1度未満 2.1カ月に1度
 - 3. 1 週に 1 度 4.毎日あるいはほとんど毎日
- 4. 過去 1 年間に、飲み始めると止められなかったことが、どのくらいの頻度でありましたか?
 - 0.ない 1.1カ月に1度未満 2.1カ月に1度 3.1週に1度
 - 4.毎日あるいはほとんど毎日
- 5. 過去 1 年間に、普通だと行えることを飲酒していたためにできなかったことが、どのくらいの頻度でありましたか?
 - 0.ない 1.1カ月に1度未満 2.1カ月に1度 3.1週に1度
 - 4.毎日あるいはほとんど毎日
- 6.過去 1 年間に、深酒の後体調を整えるために、朝迎え酒をせねばならなかったことが、 どのくらいの頻度でありましたか?
 - 0.ない 1.1カ月に1度未満 2.1カ月に1度 3.1週に1度
 - 4.毎日あるいはほとんど毎日
- 7. 過去 1 年間に、飲酒後罪悪感や自責の念にかられたことが、どのくらいの頻度でありましたか?
 - 0.ない 1.1カ月に1度未満 2.1カ月に1度 3.1週に1度
 - 4.毎日あるいはほとんど毎日

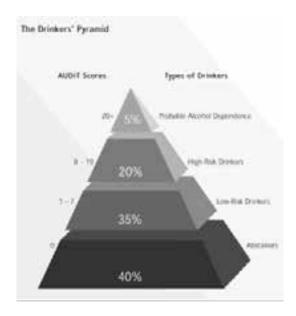
- 8. 過去 1 年間に、飲酒のため前夜の出来事を思い出せなかったことが、どのくらいの頻度でありましたか?
- 0.ない 1.1カ月に1度未満 2.1カ月に1度 3.1週に1度
- 4.毎日あるいはほとんど毎日
- 9. あなたの飲酒のために、あなた自身か他の誰かがけがをしたことがありますか?
 - 0.ない 2.あるが、過去 1 年にはなし 4.過去 1 年間にあり
- 10. 肉親や親戚、友人、医師、あるいは他の健康管理にたずさわる人が、あなたの飲酒について心配したり、飲酒量を減らすように勧めたりしたことがありますか?
 - 0.ない 2.あるが、過去 1 年にはなし 4.過去 1 年間にあり

表 3

Risk Level	Intervention	AUDIT Score*
Zone I	Akohol Education	0.7
Zone II	Simple Advice	8-15
Zone III.	Simple Advice plus Brief Governding and Continued Monitoring	16-19
Zona IV	Referral to Specialist for Diagnostic Evaluation and Teatment	20.40

[&]quot;The AUDIT cut-off score may vary slightly depending on the country's direking patterns, the accord consent of standard drinks, and the nature of the screening program. Consult the AUDIT manual for details. Clinical judgment should be resected in the interprotation of screening test results to modify these guiddines, especially when AUDIT scores are in the range of 15-25.

図 2



久里浜医療センターHP より引用

http://www.kurihama-med.jp/alcohol/

結果3.運転の可否について

Q3. 今の状態で車を運転できますか?という問いに対して、「<u>1.いつも通りできる2.やろうと思えばできる</u> <u>3.多分できない4.全くできない</u>」という4件法で行った。

結果、飲酒直後において摂取量に関わらず、1.いつも通りできる2.やろうと思えばできると回答した者が <u>飲酒終了直後では16名中6名(38%)</u>確認された。<u>飲酒終了後3時間では、16名中11名(69%)</u>確認 された。

表 4 各実験対象者の運転可否(点)

NO.	飲酒量 (単位)	年齢 (歳)	直後	30分後	90分後	150分後	180分後
9	8	46	4		4		3
1	5	76	1	2	2		2
2	4	74	2	2	2	2	2
3	4	54	3	2	2	2	2
4	4	73	3	3	3	3	3
5	4	59	3	3	4	4	4
7	4	66	3	3	2	2	1
10	4	51	4	4	4	4	4
12	4	35	4	3	3	3	3
15	4	56	3	3	4	2	2
16	4	44	3	2	1	1	1
6	2	49	4	3	2	2	2
8	2	40	1	1	1	1	1
11	2	59	2	3	2	2	2
13	2	43	2	2	1	1	1
14	2	24	2	2	2	2	2

※ 赤色は、可否のレベルが、2以下の者

器械検査

CRT運転適性検査器 選択反応検査(3刺激(赤・黄・青) アクセル・ブレーキ反応検査







CRT 運転適性検査について

本実験で使用した、CRT 運転適性検査器は、竹井機器工業株式会社が、1987年に警察庁との共同開発により運転者の運転適性を測定する器機として開発されたものである。

検査は、飲酒前及び、30分後飲酒終了3時間後で測定が行われた。

検査内容

1 画面に CG による道路映像が表示され、実験協力者は、普段の運転時と同じようにその場で刺激に対して特定のハンドル、アクセル、ブレーキ操作を行う。

本実験では、「アクセル・ブレーキ反応検査」が使用された。

アクセル・ブレーキ反応検査

(青・黄・赤の刺激に対し、それぞれの反応動作の正確さ、速さを測定する『3刺激選択反応検査』である。)

検査画面としては、無作為な時間感覚および無作為な順序で示される円状の

青色、黄色、赤色刺激に対して、右足のみで反応動作を行い(青色は、アクセルペダルを踏み続け、黄色は、アクセルペダルから足を離し、赤色は、ブレーキペダルに踏み替える)選択的反応動作の速さ、 反応むら、反応動作の正確さを測定する。

【練習/数回 検査/50回 検査時間/約3分30秒】

結果4. CRT 運転適性検査の結果

4-1. 平均反応時間について

アクセル・ブレーキ反応検査において、各刺激に対して、反応することの平均反応時間の評価値を事前検査と比べると

飲酒終了後30分後において、反応時間の評価が下がった者は、5名(31%)確認され、POST 検査では、4名(25%)確認された。

表5 各実験対象者の平均反応時間について

NO.	飲酒量 (単位)	年齢 (歳)	直後	30分後	3時間後
1	5	76	5	3	
2	4	74	3	3	3
3	4	54	3	4	4
4	4	73	3	3	3
5	4	59	3	2	2
6	2	49	3	4	4
7	4	66	4	3	3
8	2	40	3	3	3
9	8	46	4		1
10	4	51	2	2	3
11	2	59	2	4	2
12	4	35	3	2	3
13	2	43	1	1	1
14	2	24	3	3	3
15	4	56	2	2	2
16	4	44	4	2	3

※1 緑色は、飲酒前検査より30分後と3時間後両方で成績が落ちた者

※2 青色は、飲酒前検査より30分後で成績が落ちた者

※3 赤色は、飲酒前検査より30分後で成績が落ちた者

第13回飲酒実験結果のまとめ

本実験では、現時点で、以下のことが明らかになった。

1.呼気中エタノール量について

呼気検査は、飲酒前及びアルコールを任意量摂取した直後、30分間後、飲酒終了後1時間毎に実験終了後3時間で行われた。飲酒量(単位)ごとに降順に並び替えを行った。

飲酒直後で最大呼気アルコール量を計測した。

飲酒終了3時間後において、飲酒量に関わらず実験協力者**多くのものから呼気エタノール量が酒気帯び運転の基準である**0.15mg/lを大きく超えて検出された。

2.運転の可否について

飲酒量に関わらず、飲酒直後から、運転が可能であると答えた者が、参加者の約38%と 高くなっている。

また、3時間経過すると約69%が、運転が可能であると判断してしまう。

先行研究と同様、生理的な酔いと主観的酔いの乖離が起きてしまい、小休止後、「酒気残り運転」を "つい"してしまう原因であると考えられる。

3.運転適性検査の結果について

アクセル・ブレーキ反応検査において、各刺激に対しての平均反応時間の評価値を事前に検査に比べると飲酒終了後30分後において、反応時間の評価が下がった者は、5名(31%)確認され、POST 検査では、4名(25%)確認された。

交通環境において行動することは、同時並行的に様々な行動する必要がある。すなわち、飲酒による中枢神経麻痺により、反応に遅れが生じたるものである。

同時に、アルコール摂取による作用麻痺は、翌日にも及ぶ可能性があることが、確認できた。

アンケートにお答えください

性別: 男 女 生年月日: 年 月 日 年齢: 歳	NO.		В	氏名:				
生年月日: 年 月 日 年齢: 歳	性別:	男	女					
	生年月	日:		年	月	日	年齡:	歳

1	今の体調は?	良好	問題なし	わからない		
2	今日何単位飲	みましたか?	単位			
3	今酔いは醒め	ていますか?	醒めていない	醒めた		
4	今の状態で運転は、できますか?		いつもと 変わらずできる	しようと 思えばできる	できない	
5	今後飲酒実験に参	加したいですか?	したい	どちらでもない	したくない	

「岡山県飲酒運転を許さない社会環境づくり条例」((平成25年3月22日施行)別紙))というものがありますが、ご存知でしたでしょうか。					
1.知っていた	2. 全く知らなかった	3. 興味が無い			
飲酒実験に参加して	の感想を書いてください。				

※スタッフは、全ての設問に回答しているか必ず確認して下さい。

第13回飲酒実験 参加者の感想

平成30年12月1日

MT 49歳 経営者

自分を知る良い機会を頂戴しました。少量飲酒(2単位)なのに自分の限界値に近づきました。(自分の限界が2単位であることがわかりました)。反面、酔いからさめる感覚はない(まだアルコールが残っている感覚がある)のに、検査数値では「0」になっていました。そんなことがわかった貴重な体験でした。

NS 66歳 経営者

実際に酒を飲んで、どれ位のアルコールが残っているのか知る機会がないので 貴重な体験ができたと思っています。運転する全ての人が一度体験すべきだと 思います。できればの話ですが。本日はスタッフの皆様有難うございました。

OS 73歳 地域住民

今年も良い体験を有難うございました。

TK 54歳 地域住民

楽しく実験に参加でき、しかもデータが有効活用され、有意義な時間を過ごせました。実験内容は年々変化があると思いますが、効率化について熟考が要せられます。今後も宜しくお願いします。

FT 59歲 地域住民

初めて参加して緊張しました。昼間から飲酒する機会が無いので少し何時もと感じが違いました。

MT 59歲 経営者 LC

楽しく参加できました。初参加でしたが自分のことがわかり良かったです。 有難うございました。

YT 40歲 経営者 LC

飲酒運転撲滅への運動がはや13回。そんな中でも地域との交流を含め、素晴らしい地域貢献だと思います。自分自身に置き換えても、お酒を飲む責任と、 重大さを感じています。また地域での飲酒の撲滅に努めていきたいと思います

KK 44歳 経営者 LC

今日は有難うございました。三度目の参加でした。前回、前々回から感じていた部分ですが、自分はお酒の代謝があまり良くないことを改めて実感しました 今後は今日の結果をふまえて、運転は心して取り組もうと思いました。「飲んだら乗るな、飲むなら乗るな」で人生を生き抜いていこうと思っております。 今後とも宜しくお願いいたします。

KK 70歳 経営者 LC(サポーター)

実験をされている皆様を見させていただき、自分の体内のアルコール分が何時間たったら消えるのか、それぞれ人によってさまざまだということがわかり、 検査の結果が正確に出るのにピックリしました。改めて飲酒したら運転はだめ だということがわかりました。

GH 56歳 団体役員

初めての参加でしたが有意義な一日でした。まず、

- 普段は飲む量をきちっと計って飲んでいませんが今回は正確に測って飲んだので、どの程度飲んだか分かった上で、その変化が面白く興味深いものでした。
- 機械検査については、少し慎重に取り組んだつもりですが、間違いそうになったので、やはり酒の影響はあったものと考えます。 次回も参加したいと思います。

EK 43歳 自動車会社社員

飲酒して酔った状態がどれだけ続くか興味があり、楽しく実験に参加できました。2単位の飲酒量でしたが思ったよりも酔いがさめるのが早かったので、4単位ならどうだったか気になります。スタッフの方が親切に対応して下さって非常に心地よくお酒を飲むことができました。有難うございました。

TM 24歳 自動車会社社員

飲酒実験に初めて参加させていただきました。実験を通して感じたことは、お酒を飲むことは楽しいことであると同時に、物事の判断が何時もより緩くなるということを感じました。今回は飲む量が2単位で大量には飲んでいなかったので、アルコールがさめるのは早かったですが、今後は飲んでからの間をできるだけ空けるように心がけたいと思います。最後に食事や飲み物を段取りして下さった方々に感謝申し上げます。有難うございました。

MN 46歳 経営者 LC

今日は貴重な体験をさせていただき有難うございました。 お酒を飲むのは楽しいことですが、飲みすぎや急いで飲むことは危険なことを 感じました。今日の体験は素晴らしいことでした。今後も続けて下さい。

MT 35歳 会社員

本日初めて参加しました。飲酒して4時間経過しましたが、酔いが醒めず改めて飲酒の責任の重さを感じました。今までゴルフ等でも飲酒運転はしたことは無いですが、これからも強い意志をもって対応していきたいと思います。本日は参加させていただき有難うございました。

実験風景











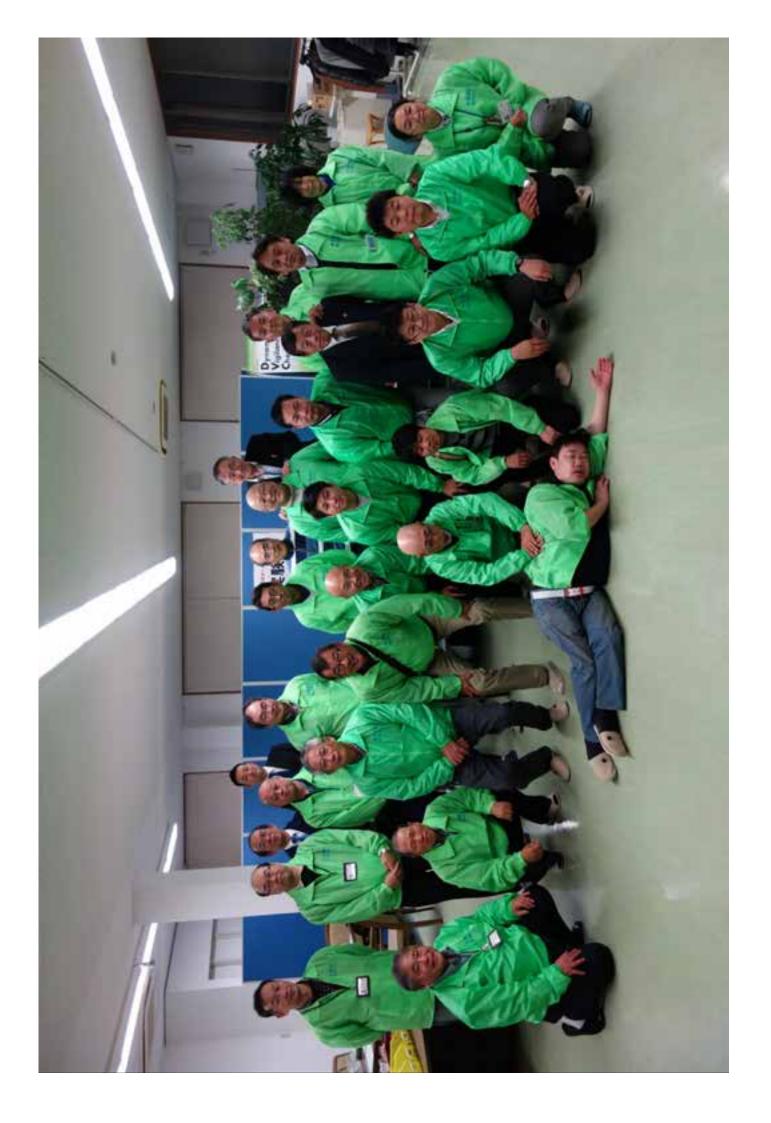












飲酒実験を終えて

今年は、一人の途中脱落者も無く終了しました。

飲んだ上に拘束時間が長丁場(開始午前 10 時~終了午後 5 時迄)であり、参加者の皆さんは最後までよく頑張って下さいました。

またサポータも検査の実施、食事の準備、体調変化者のお世話等、 お疲れ様でした。そして、第一回目の実験から健康を見守って下さっ ている小橋先生(医師)には、感謝の言葉しかありません。

現在尿検査は専門機関へ依頼し分析を進めており、意識の調査は社内で分析作業中です。全てのデータが揃いまとめが完了次第、皆様の所へ報告書をお届けしますので今しばらくお待ち下さい。

実験統括責任者 木村憙從

最後に お酒は、百薬の長と昔から言われているが、飲酒による影響は、運転だけでなく、様々な人間行動にとって百薬の害にもなりうるのです。

さらに、ちょっとの間の休憩後や翌朝にも「酒気残り」による様々な人間行動を狂わす影響を及ぼす可能性があることを知って、自分だけでなくまわりの親しい人々にもお伝えください。

「乗るなら 飲むな」を肝に銘じて、運転をすることと、お酒 を飲むことを切り離しましょう!|